鼠袴甲子真聞（ねずみのはかまかぶとのしんぶん）三編

泉竜亭是正作
櫻齋房種画

延壽堂
上梓

皇後宮子真閨編

上之巻

A480
3上

48-8136

鼠袴

三編

上之巻

甲子真聞

泉竜亭是正作

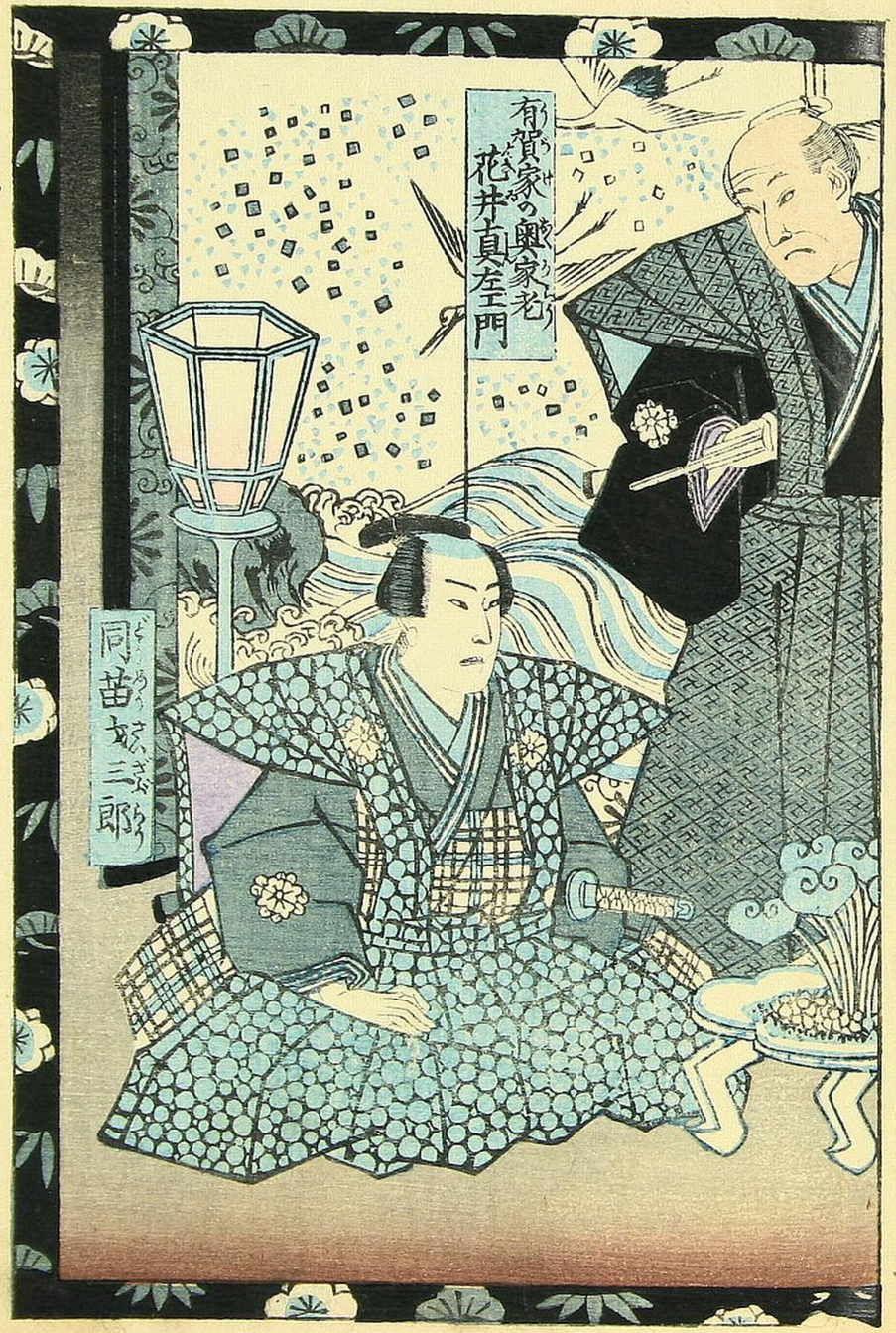
桜齋房種画

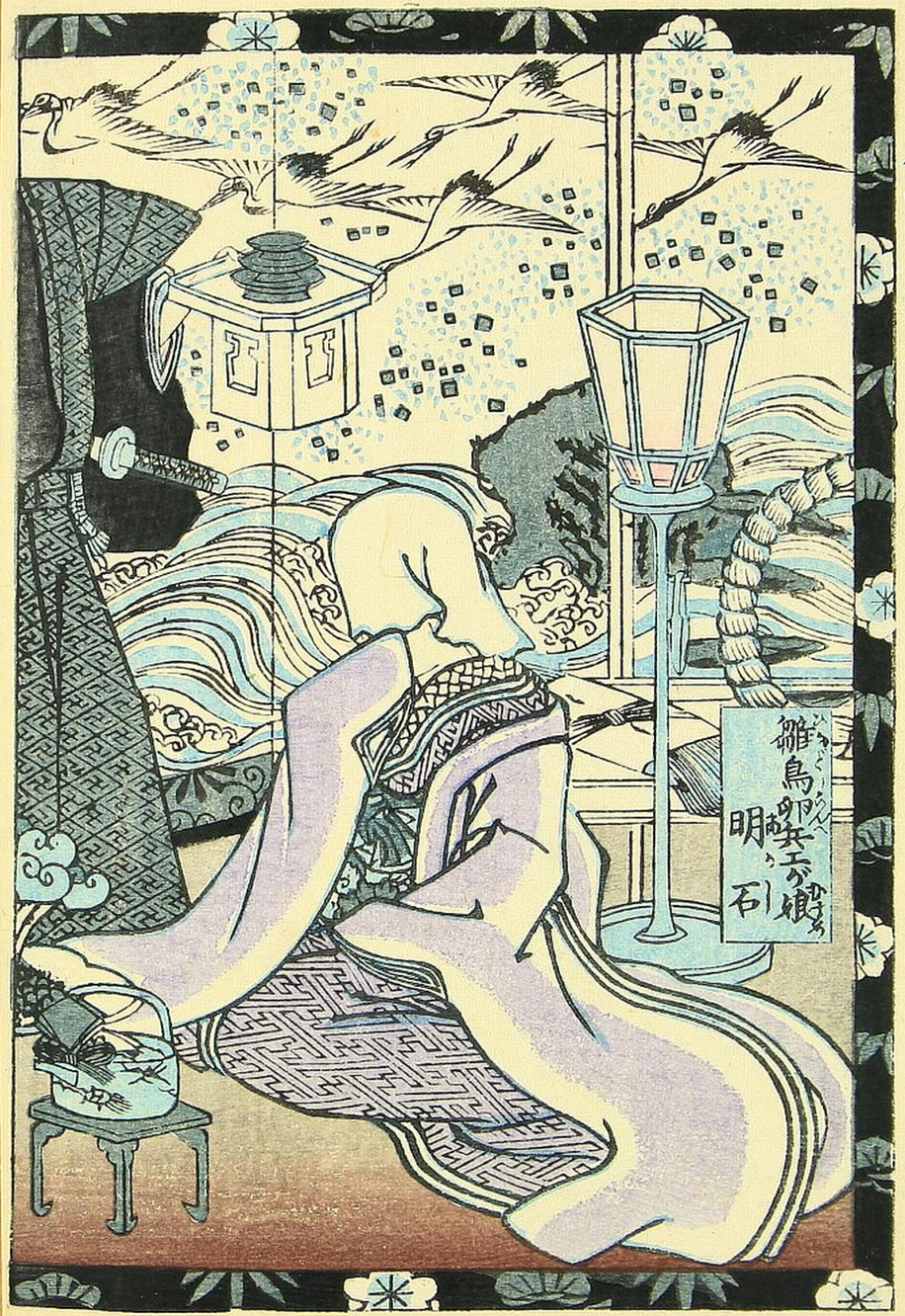
延寿堂寿梓

果報い寐て待美食い胃ゑ喰と常言ふ聞しうども寝て居く朋ゑう萩ノ餅の口へ這入ー例しも聞ぜ元より人の寐る日と伺ひ夜稼ぎるせー鼠ゑ傳記漸く筆を留めーゑ書肆が主人も乗がきて此小冊の倉入の多きを一重ゑ願ふんと一人ゑもの卯の年ゑう子づゑ仕立ー三編讀切り拙き筆ゑ綴りる作者もどうやら鼠ゑ似て御得意様を版元へ無闇ゑ引込む鼠癖鼠の正本澤山ゑ御注文のいるやうと唯欲強て三重もおく四筋五もト掛渡も電信線便りの其折ゑう萬里の波濤津路浦々夫ゑう夫へ糸を引き註評判を辰年の此初春のう望出ーゑう辰巳いるゑう御求め紙一重ゑ伏て願ふ者ハ

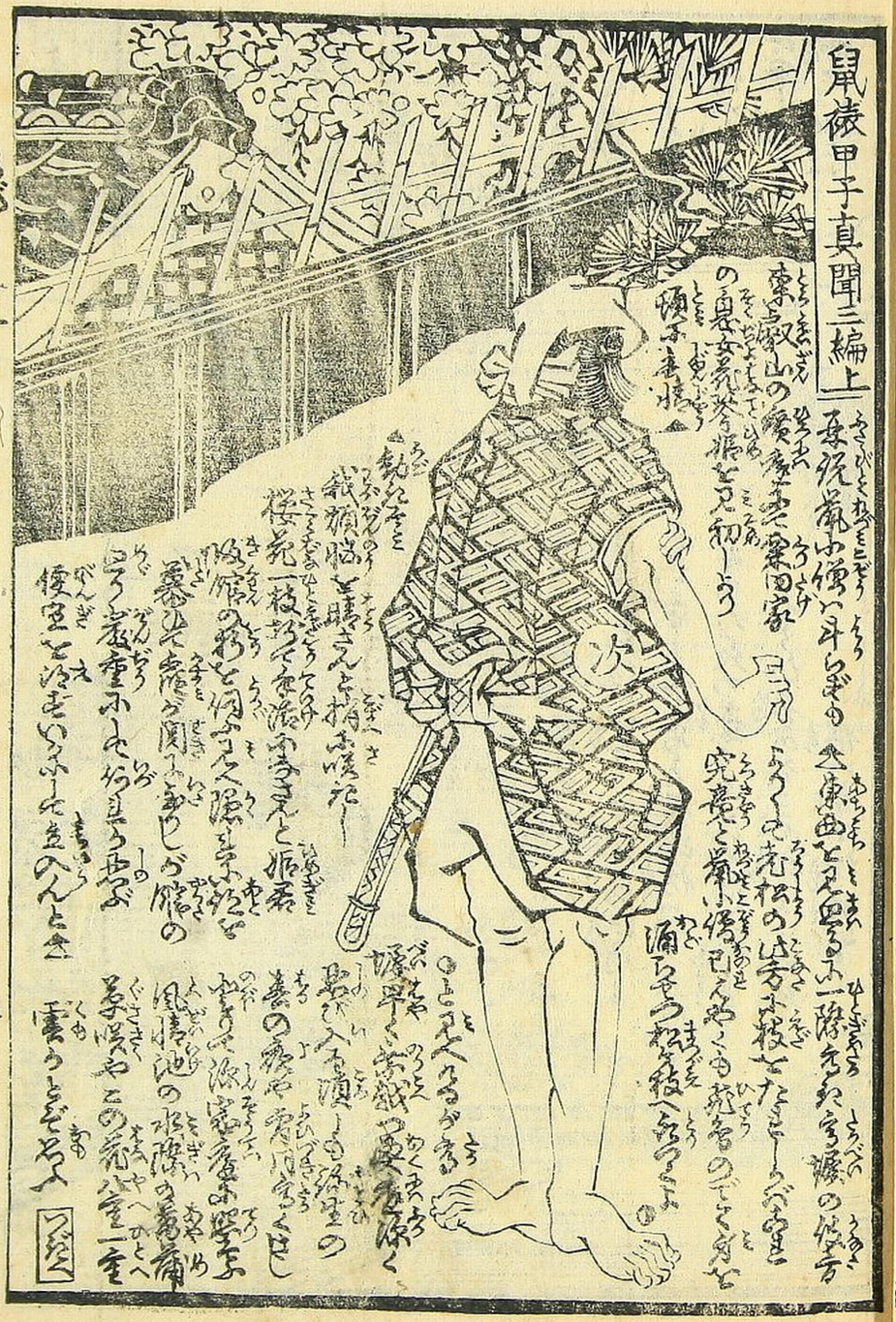
明治十三年辰ノ初春

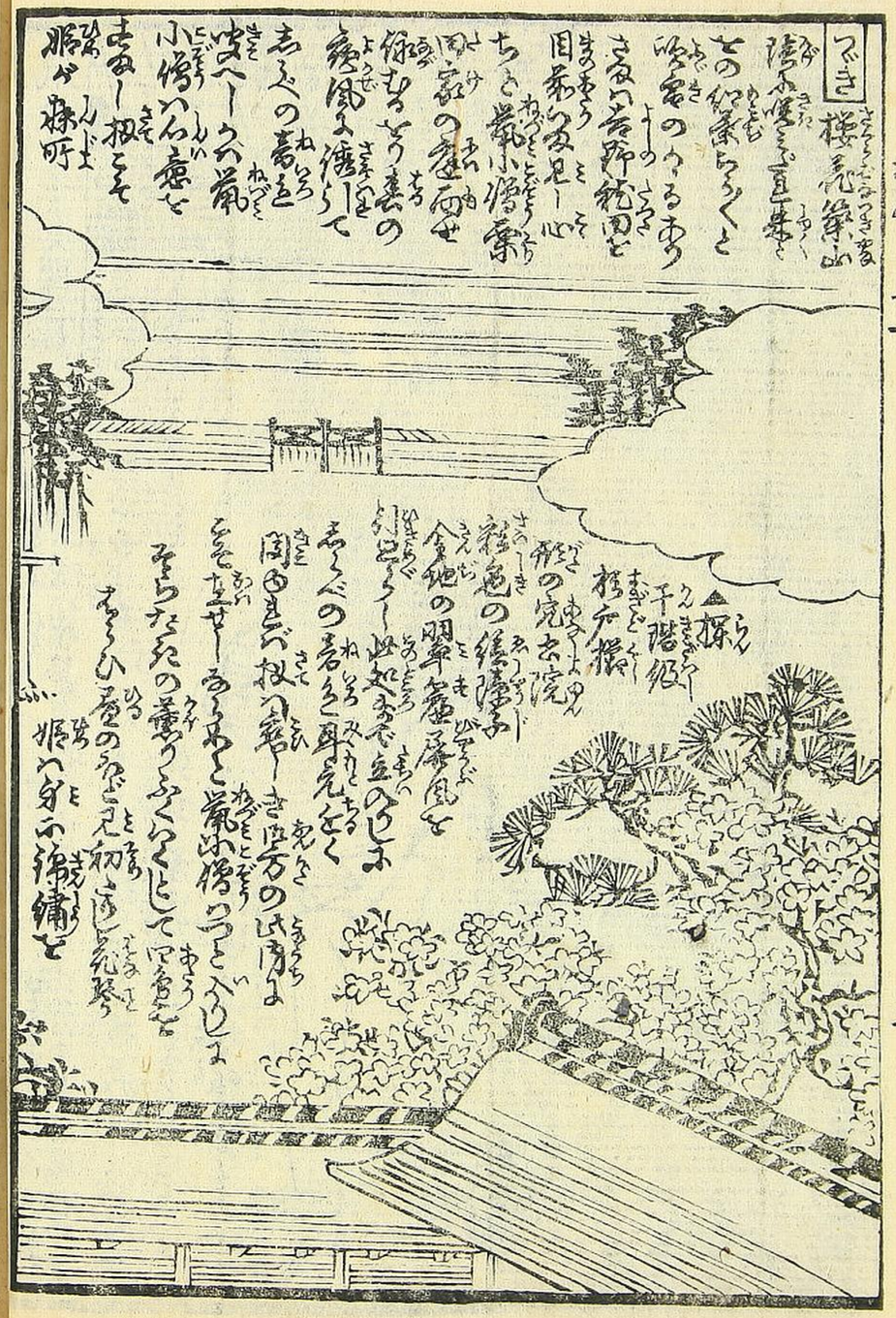
泉竜亭是正述ゑ

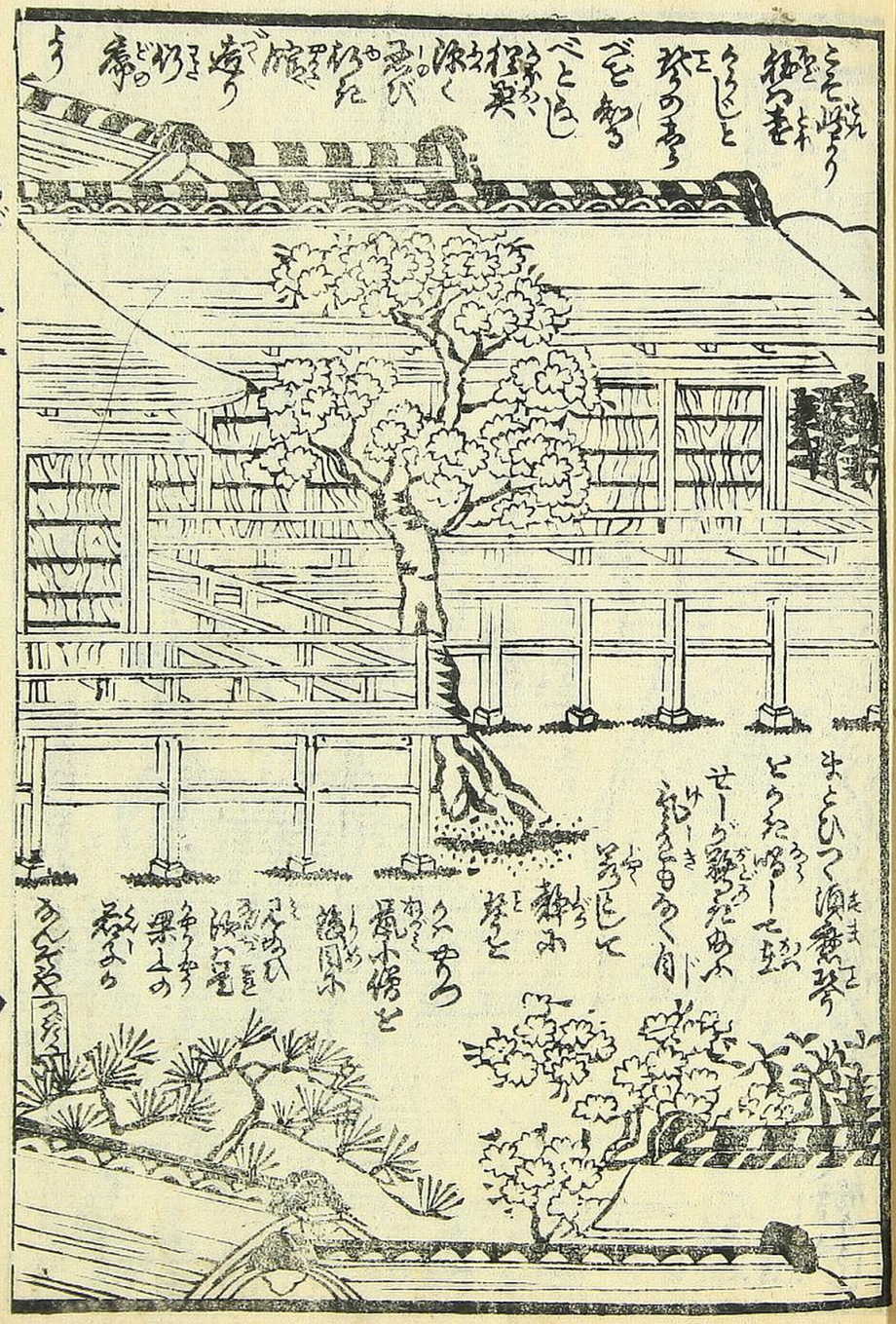

有賀家の奥家老
花井真左門
同苗玄三郎

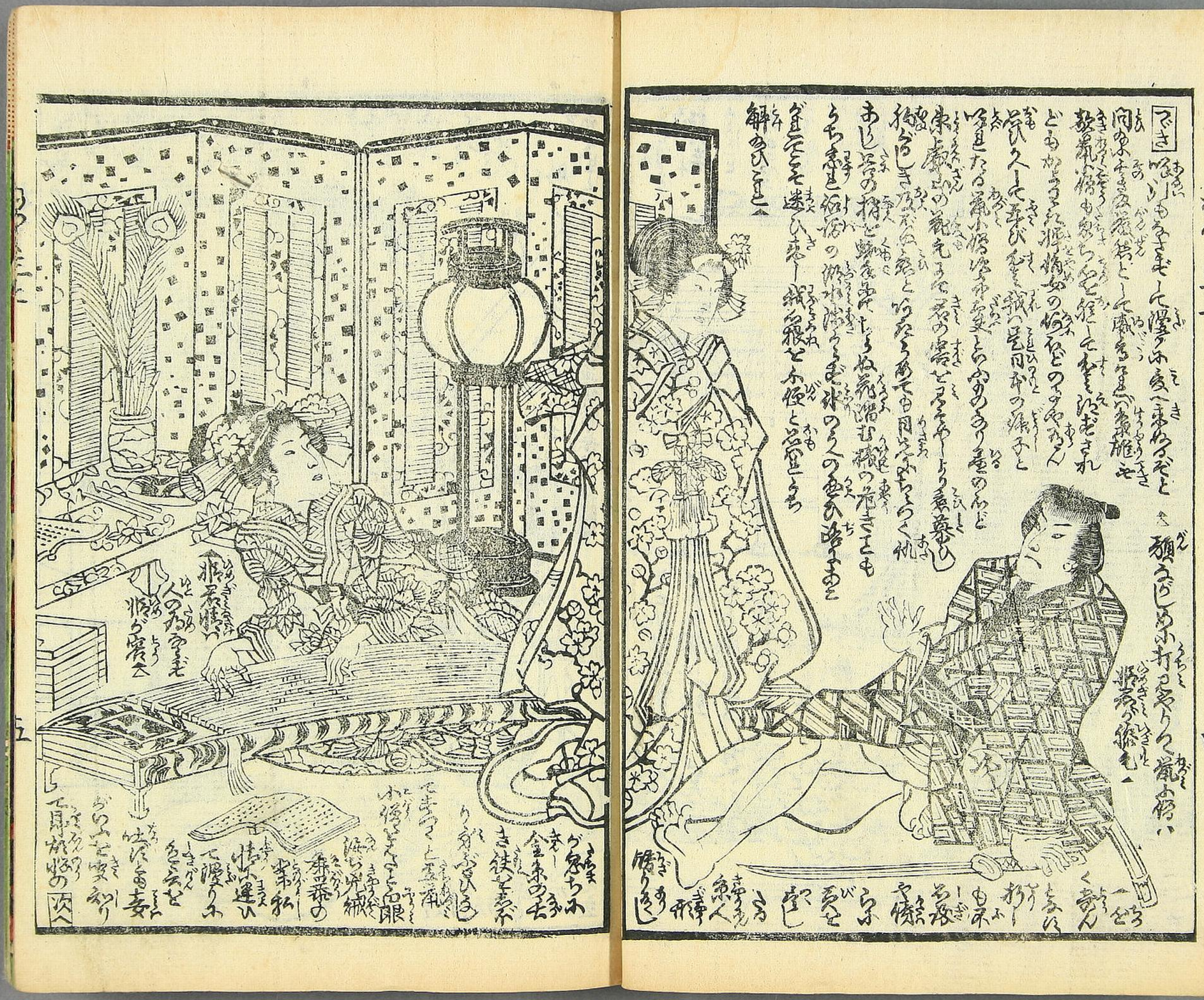

雛鳥の兵工の娘
明石

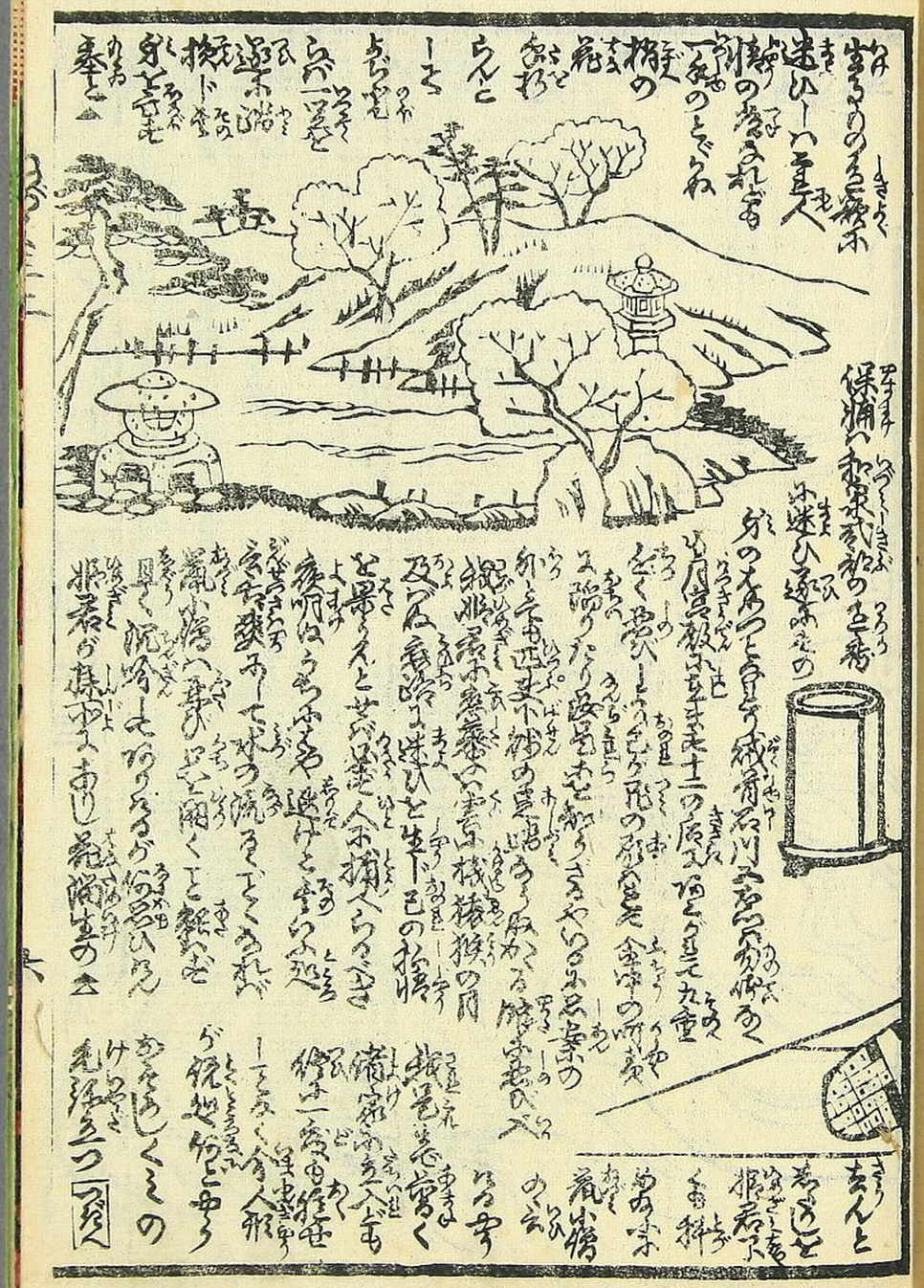
有髪の修行者
実ハ鼠小僧
次郎太夫

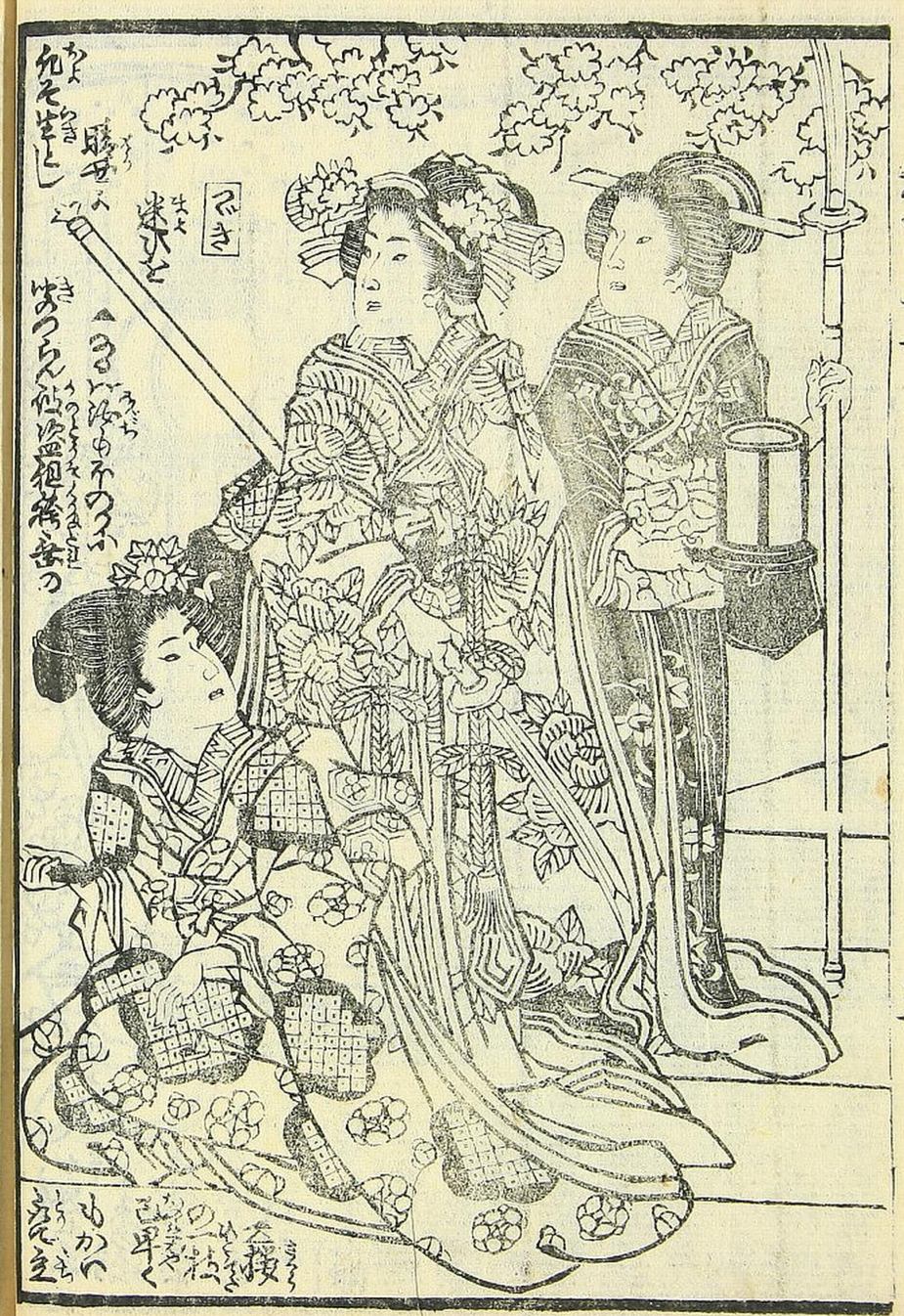

次

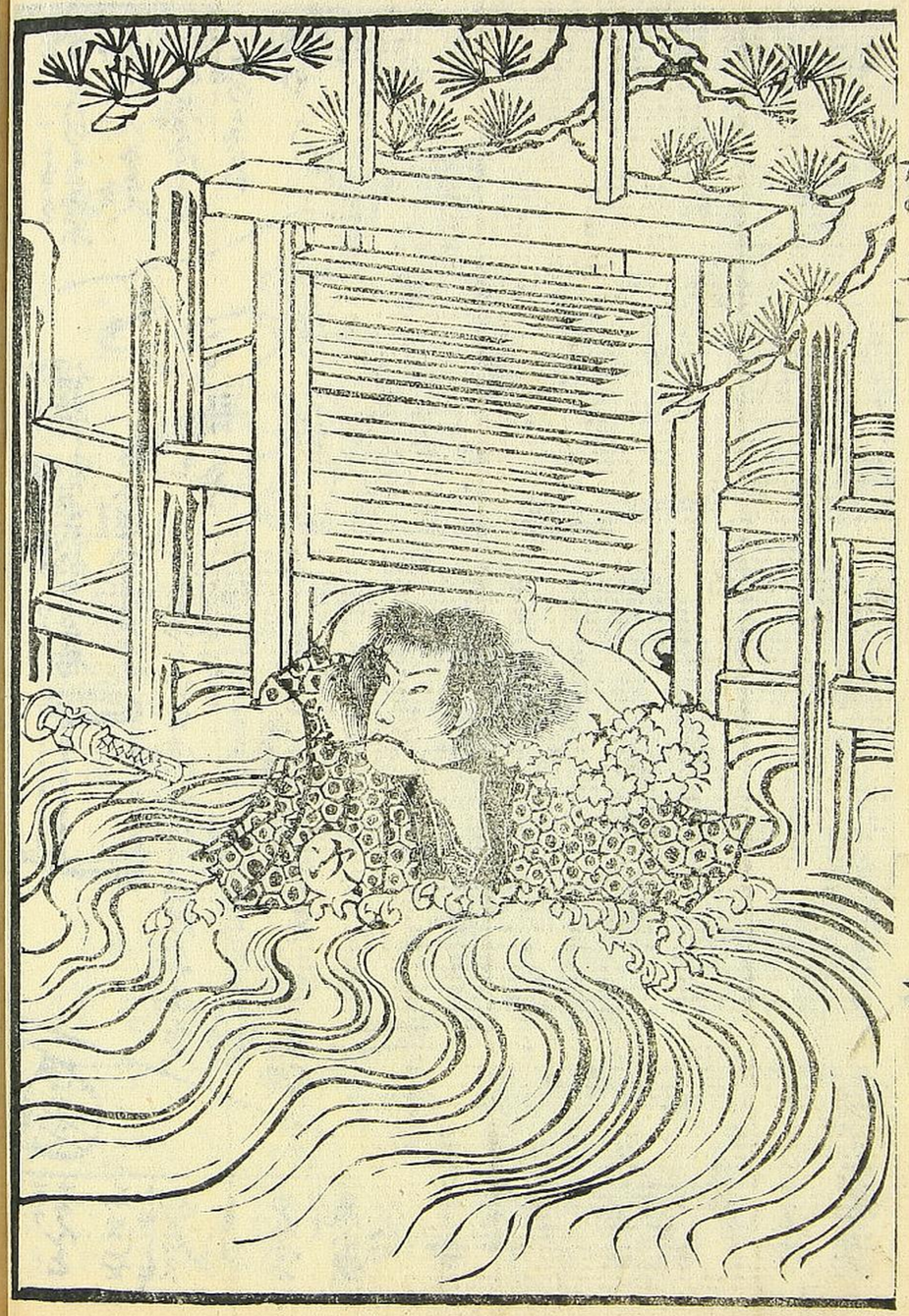

千階級
桜花
楓



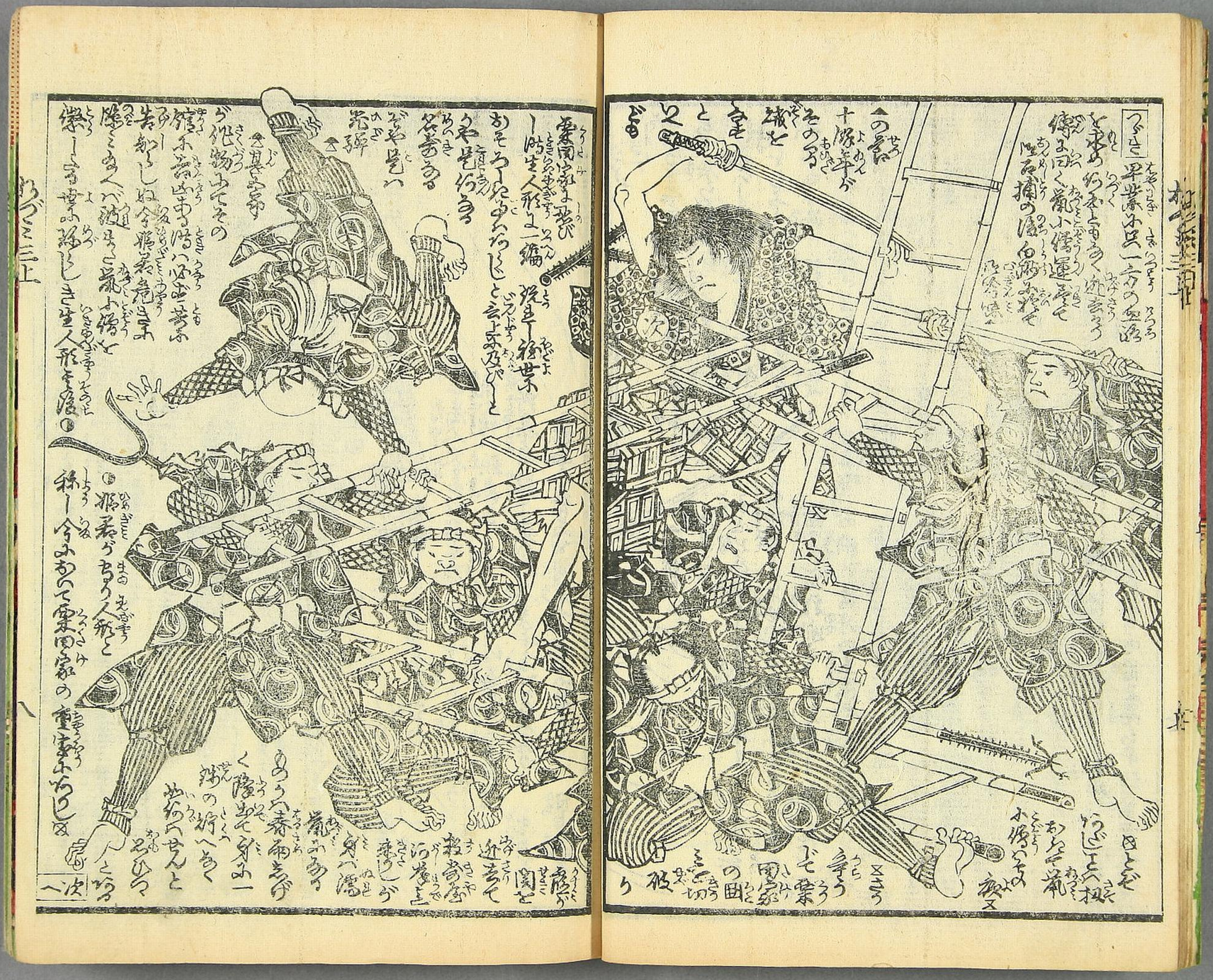








ちいさきこの家の出入口をこそ
きて来らんや此一枝の若ざくらを
折来べしき接花せんと
一枝をもとめよろも非来花と
笑らをあひ沙ぎ
ども世の人口の沙ぎ
花沙ぎをすると言れ
けよ
関入を嵐ふ
せと
一着と切らんと
此者の女中
ふ
一刀切拭き
蝶の
ハ
ハ



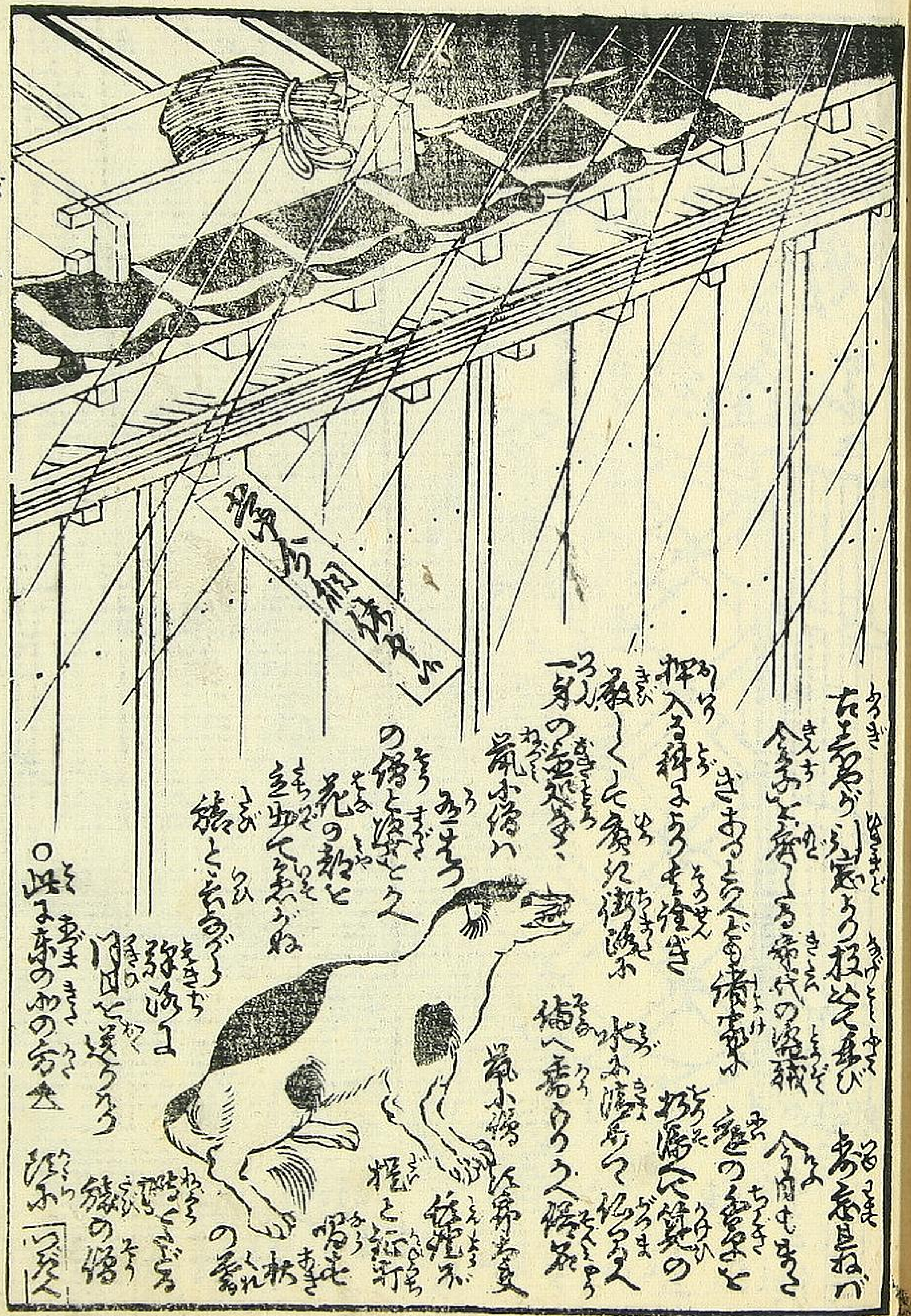
つぎ 商家を徒とする者は古來浮世とてさせ一本の業ひと思び入り金子無実を尋ね乞食の富ヶ文調へて下旬二十日と[illegible]家の[illegible]と[illegible]つて[illegible]よく見るに[illegible]と[illegible]嵐小猪は天ひに[illegible]我[illegible]まつて[illegible]と[illegible]家の内に思ひ入り[illegible]

一差文[illegible]や 商売[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]商人は金子[illegible]と[illegible]嵐小猪[illegible]水野甚[illegible]の館に思び入り金子[illegible]

[illegible]日と定め

[illegible]助けられ[illegible]

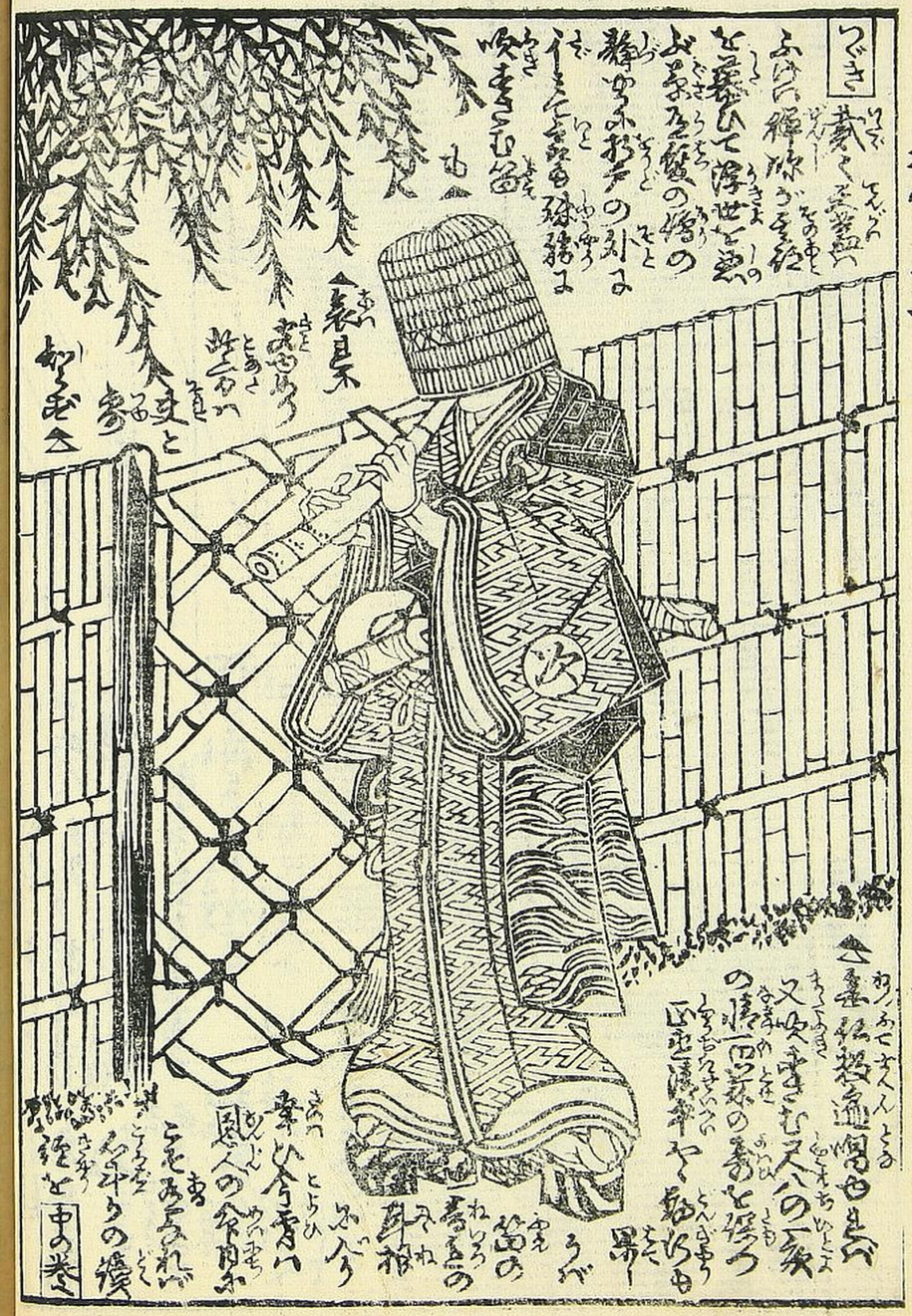


古[illegible]金子[illegible]代の[illegible]きおう[illegible]拝入る[illegible]嵐小猪は[illegible]の猪と[illegible]花の都と[illegible]

[illegible]嵐小猪[illegible]

○此まへの[illegible]

つゞく



小倉山樹榮 昔日新話 五編 泉竜亭是正作 櫻齋房種画 全

算法教授書 全

鼠袴甲子真聞 三編 泉竜亭是正作 櫻齋房種画

人民必携交際義務 同

延壽百人一首 全

大日本海陸全圖 銅版 全

白縫物譚 豊國画 昔さん西なおの若衆姿物語 故人種員稿種彦作 永板菊壽堂主人為今日ゝ新閲社ゆえ後編を出板するゆ帳ものゝ板にて同氏ゆえ出板也看官方表入りつゝ出板也看官方陸續ひ求メを仕て帯ゆ 六十四編出板 板元敬白

東京日本橋通三丁目十二番地 小林 丸屋鉄次郎版元 延壽堂

泉黾亭是正作

中久楽

嵐禍

甲子裏開

三編

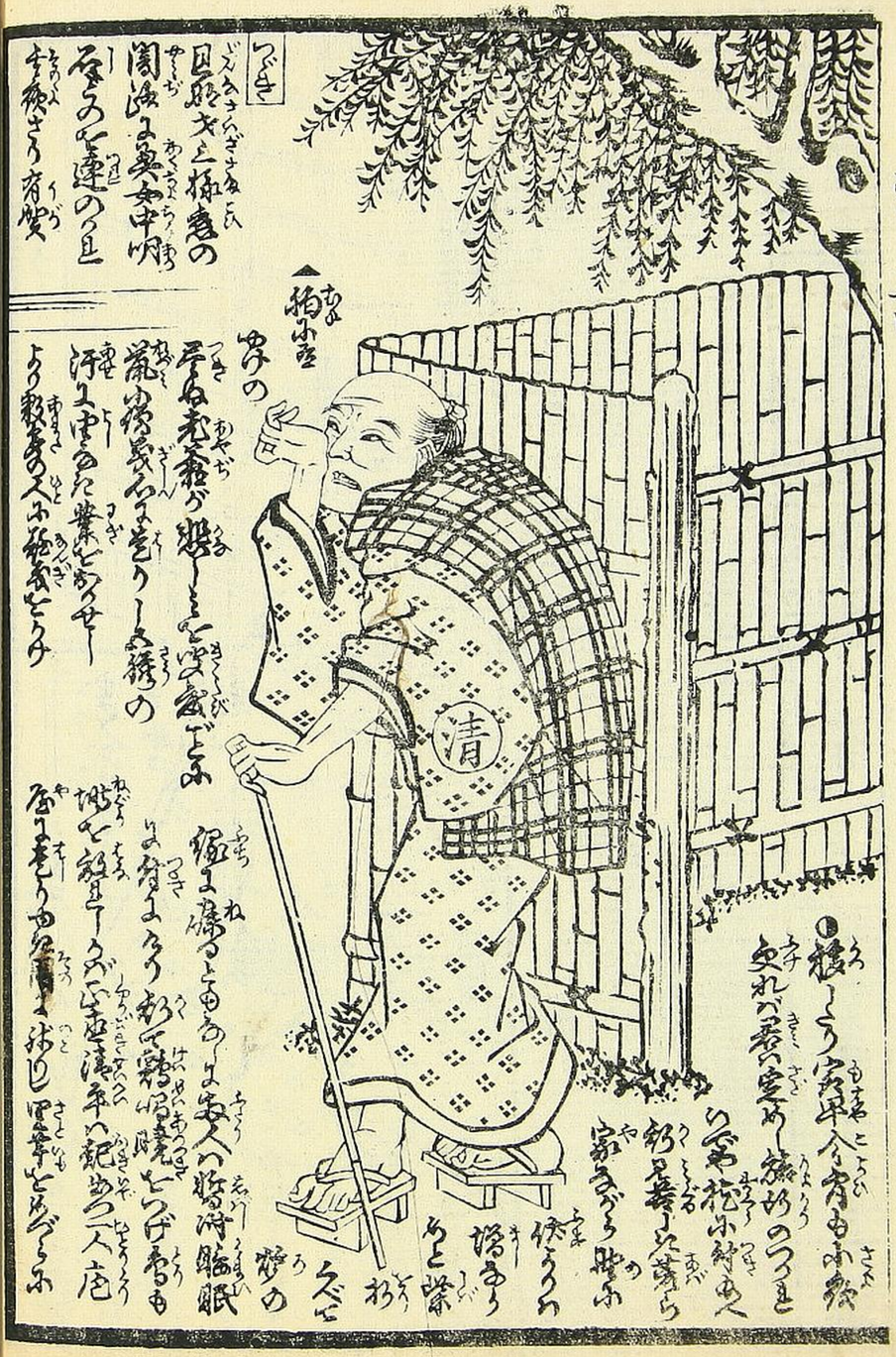
中之巻

永竜亭主人

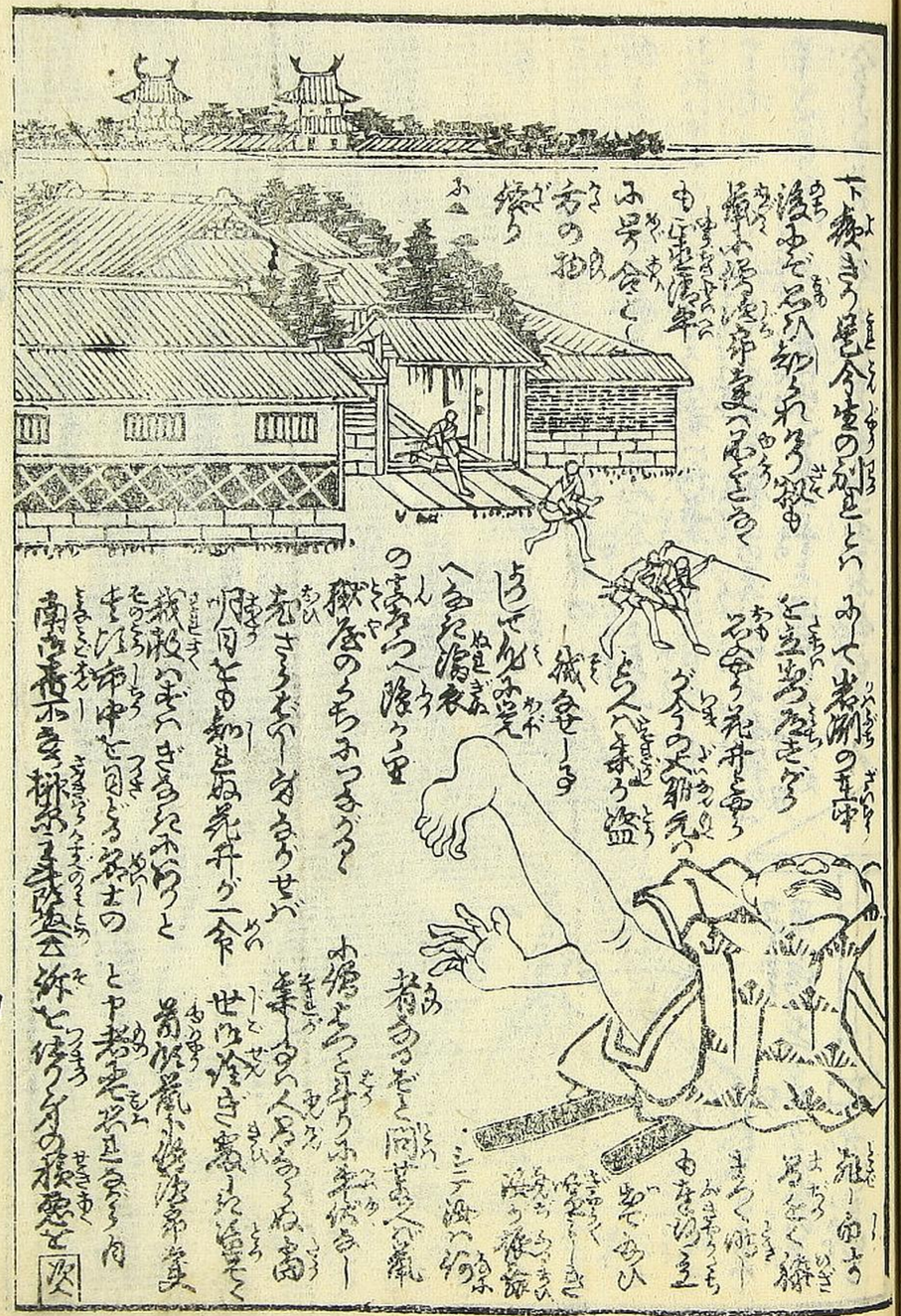
揺舟房稚画

延壽堂梓

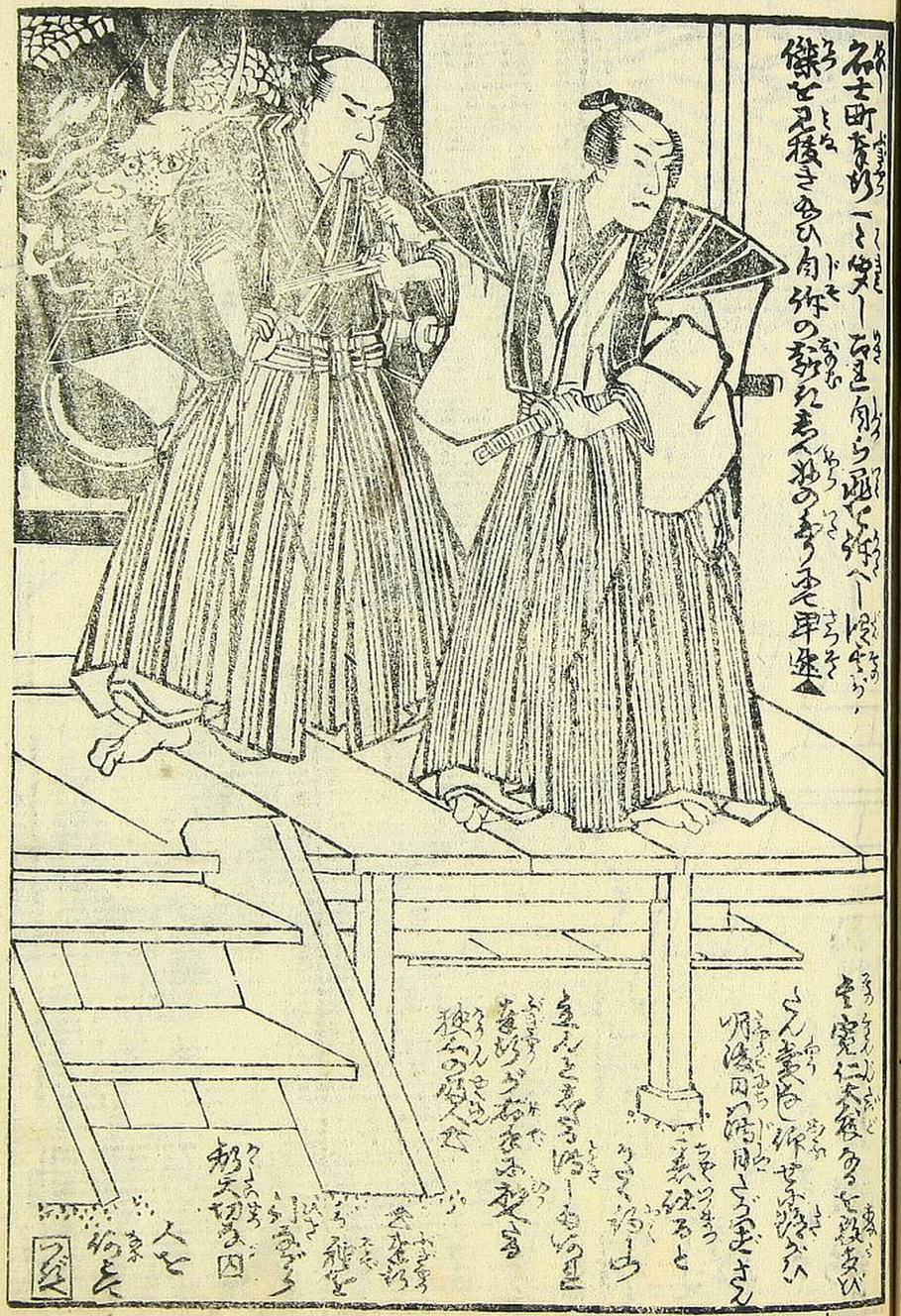
次
清

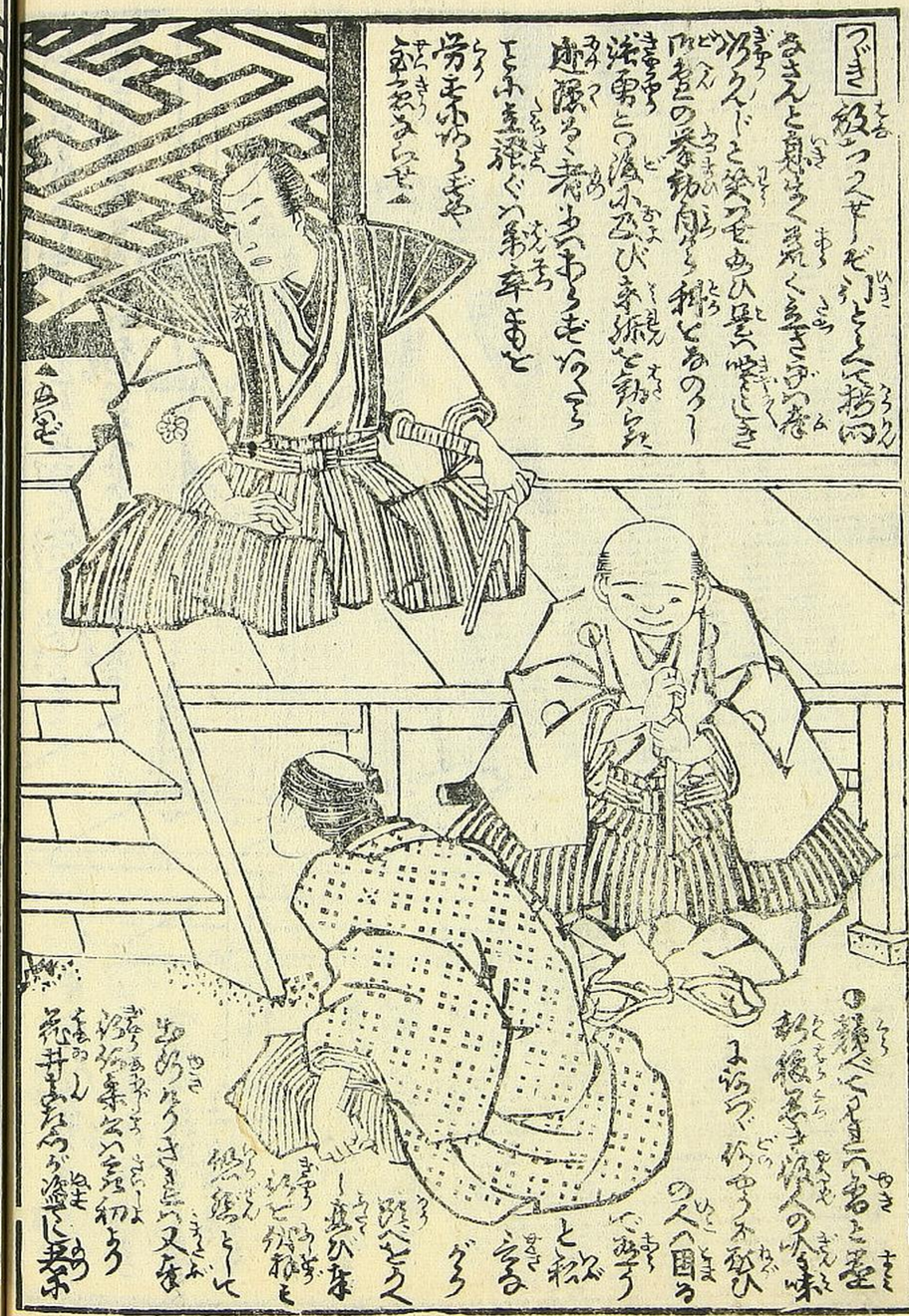

清

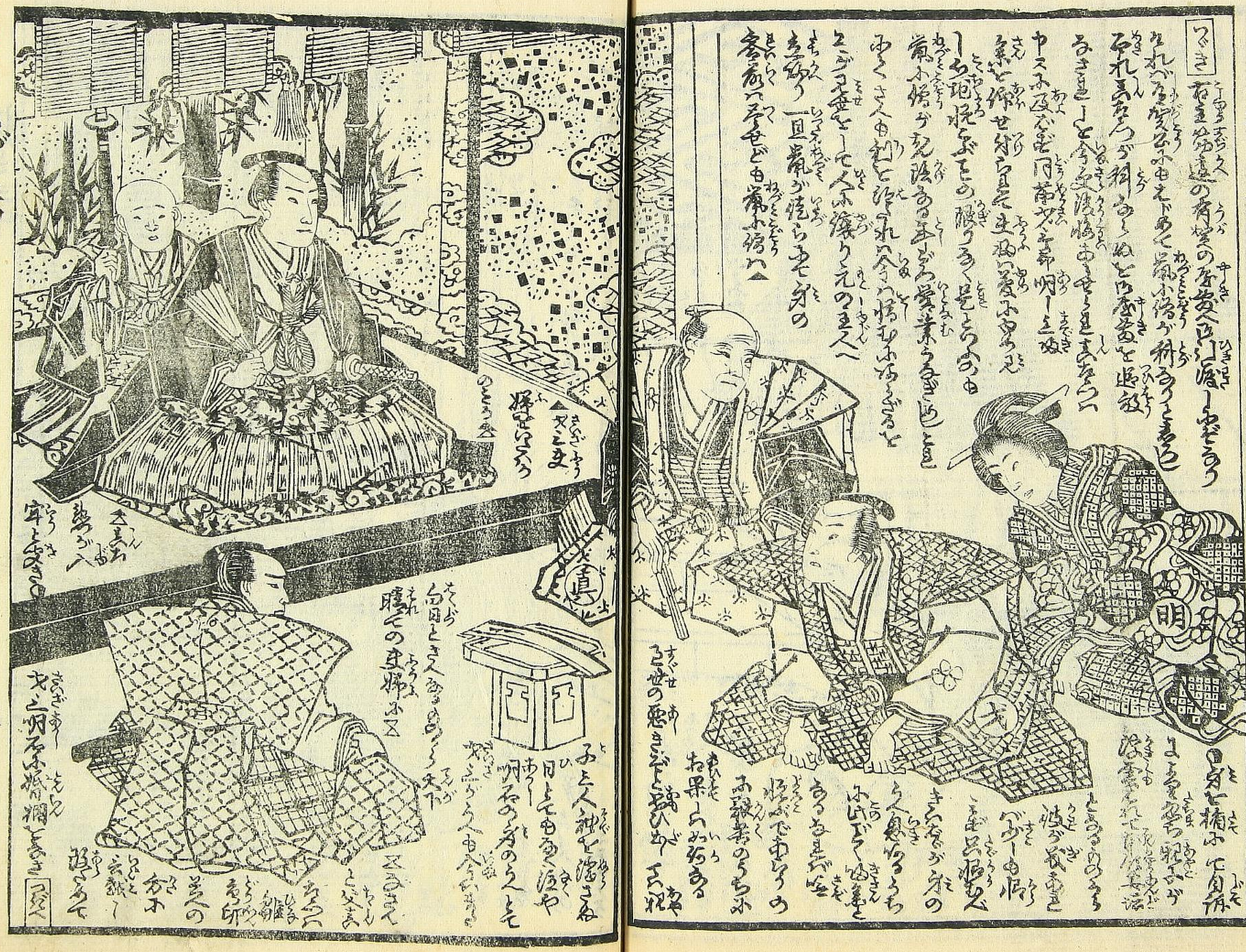
次

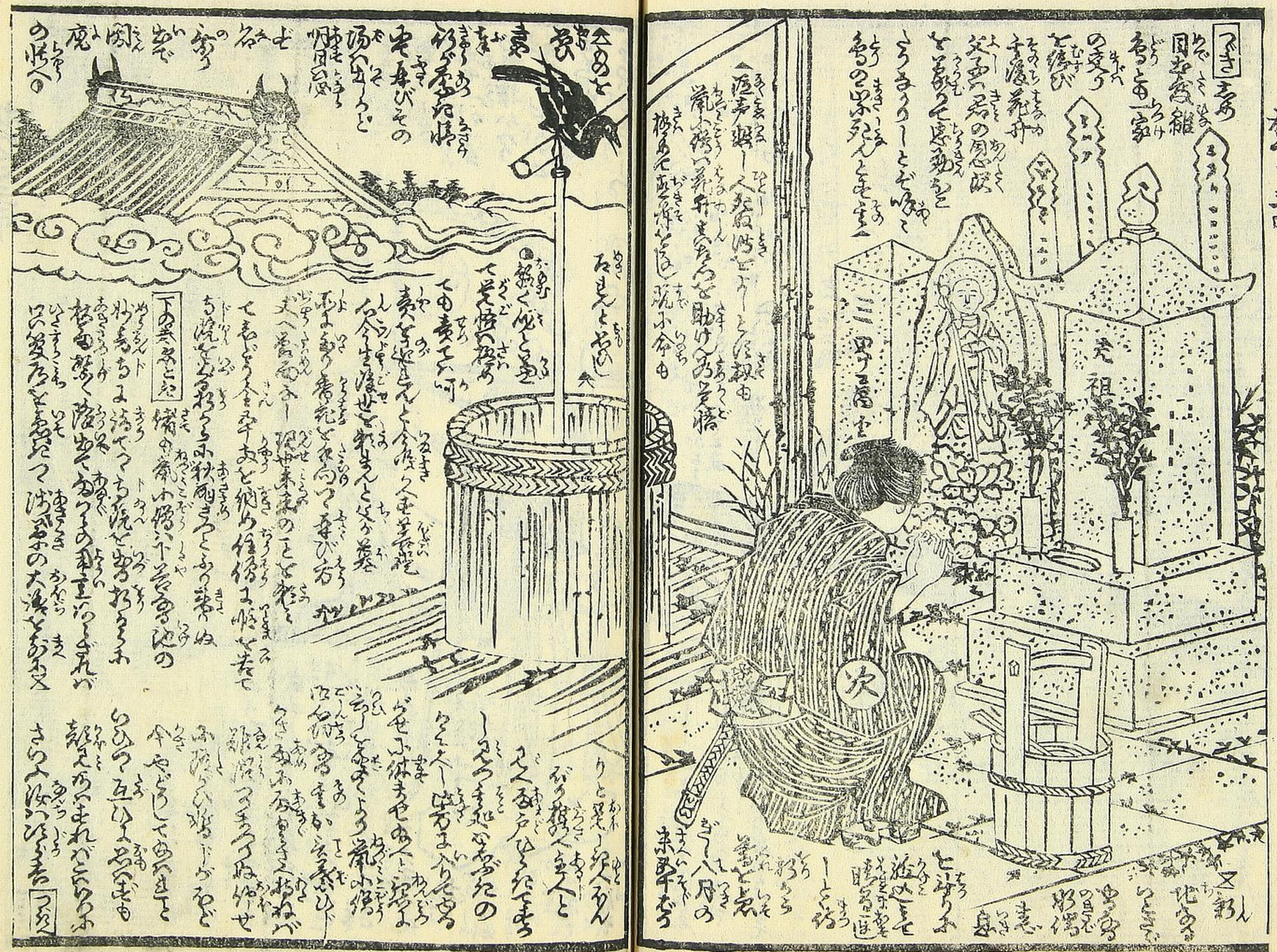


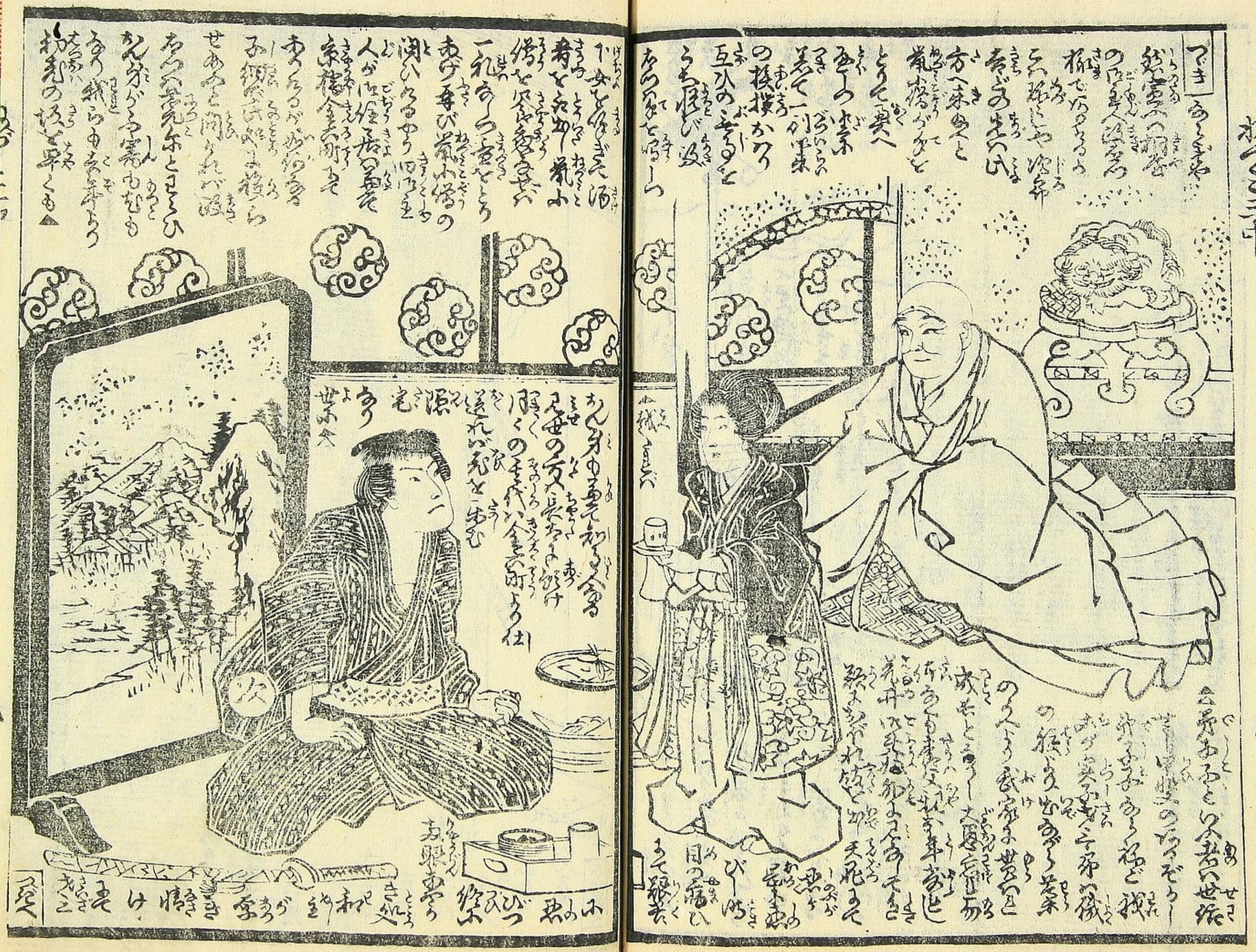
次






明
真


次
祖



艶娘毒蛇淵 三編 柳水亭種清作 揚洲周延画

浪枕江の島新語 三編 久保田彦作編輯 揚洲周延画

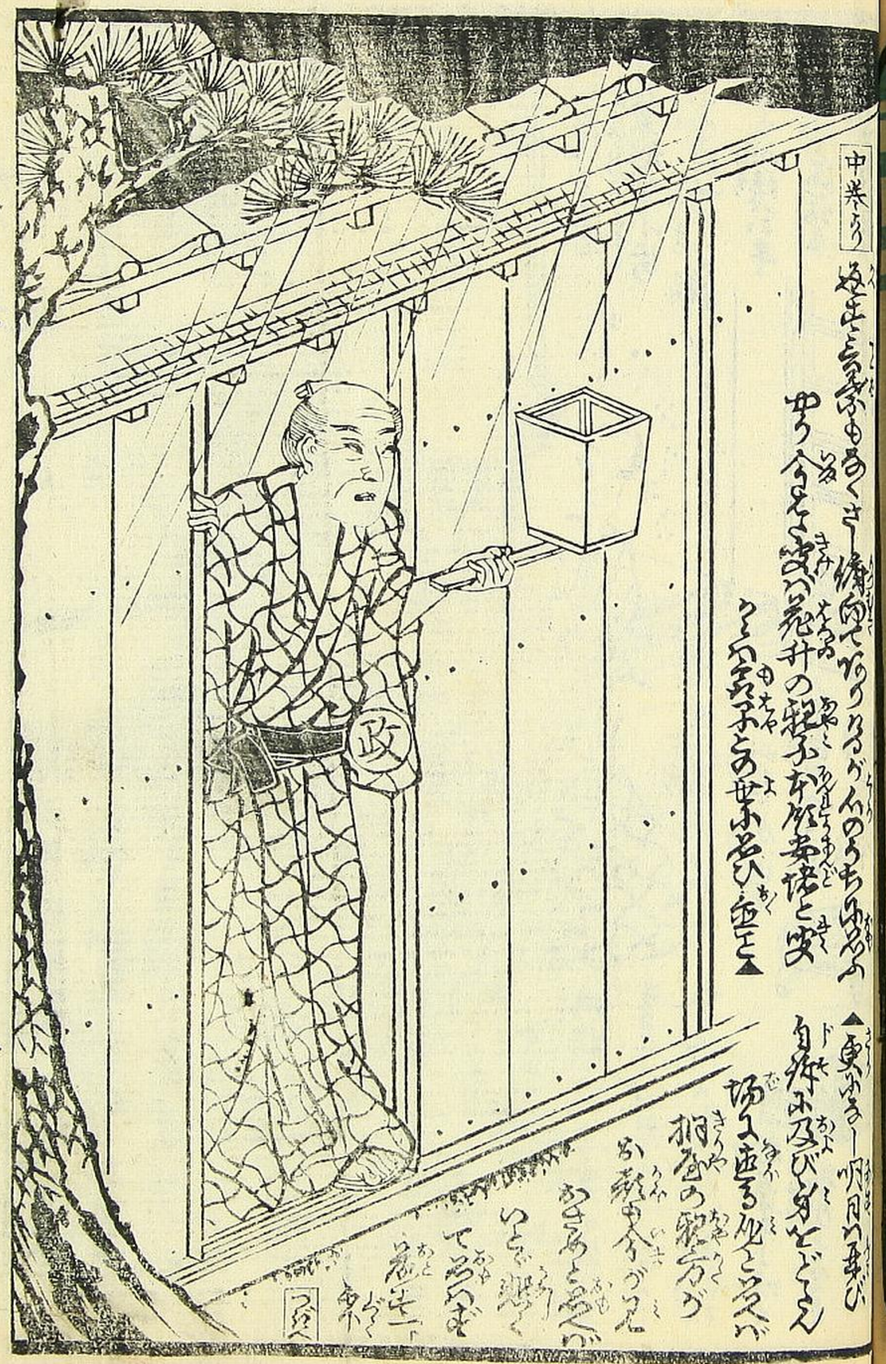
清葉ちのこ
こまつちの女さるに姫人方小兒と出そ〻そさるふ四月ひ子仕歳は大病人と月ひそう
一代記 二戦子屋

事情 明治太平記 村井静馬著 伏見より熊本萩に至る十五編 鮮齋永濯画 十六編より鹿兒島に至る

○初編ハ伏見戦争を始めとして上野東叡山焼討より其外御一新以来の事情明細に記し居るゆえ人情開化一目瞭然ゆえ婦女子ふも解しやすく綴りし書なり

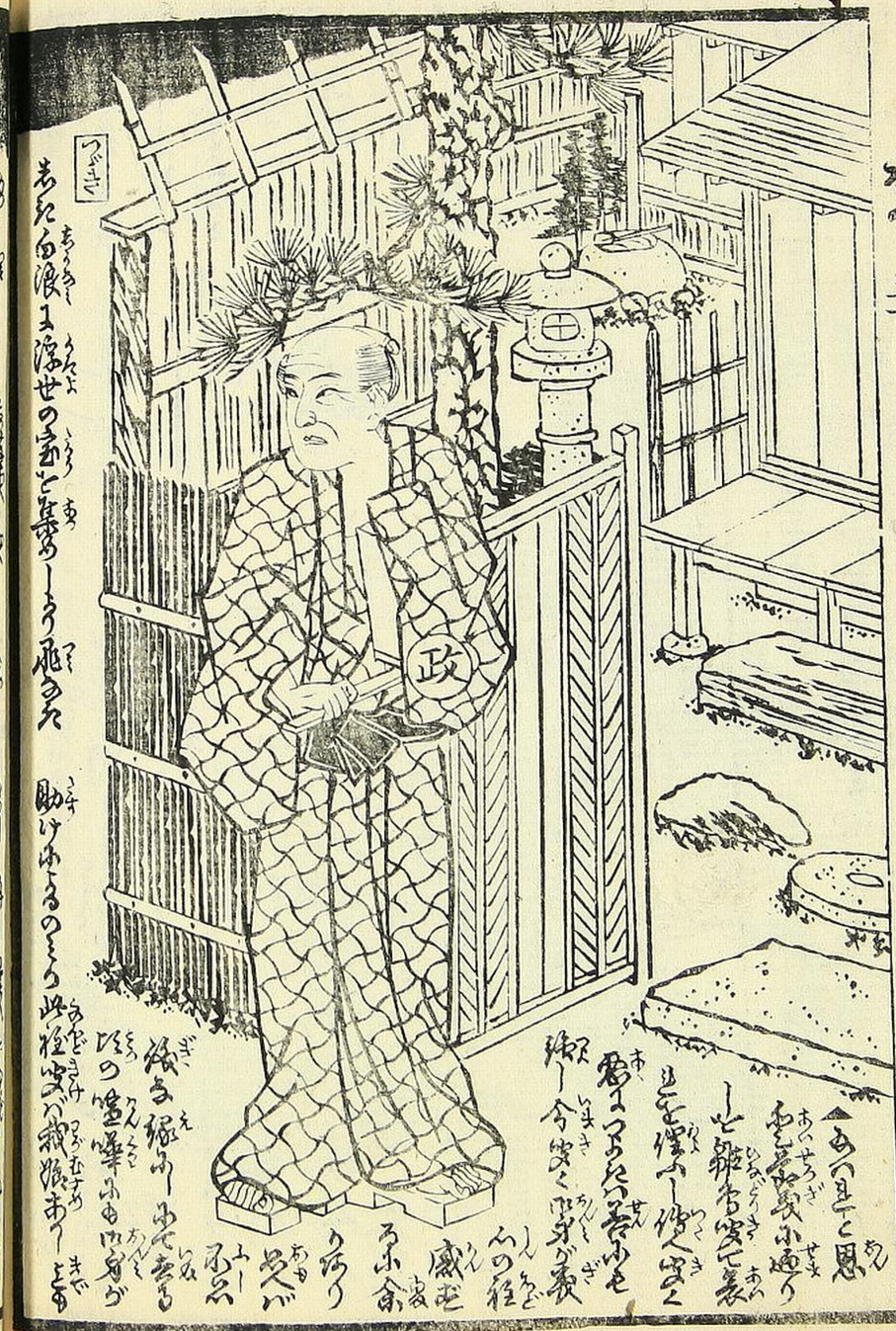
書肆 東京日本橋通二丁目十三番地
地本問屋 延壽堂 丸屋 小林鉄次郎版元

女舞扇房種重
勝子栄
下之巻


中巻より
政

新ごよみ
遊てうし
きうりへる
春雪
永寿堂
玉山作
横斜春雪稚画
世寿堂
彩刻

政
次


政

次

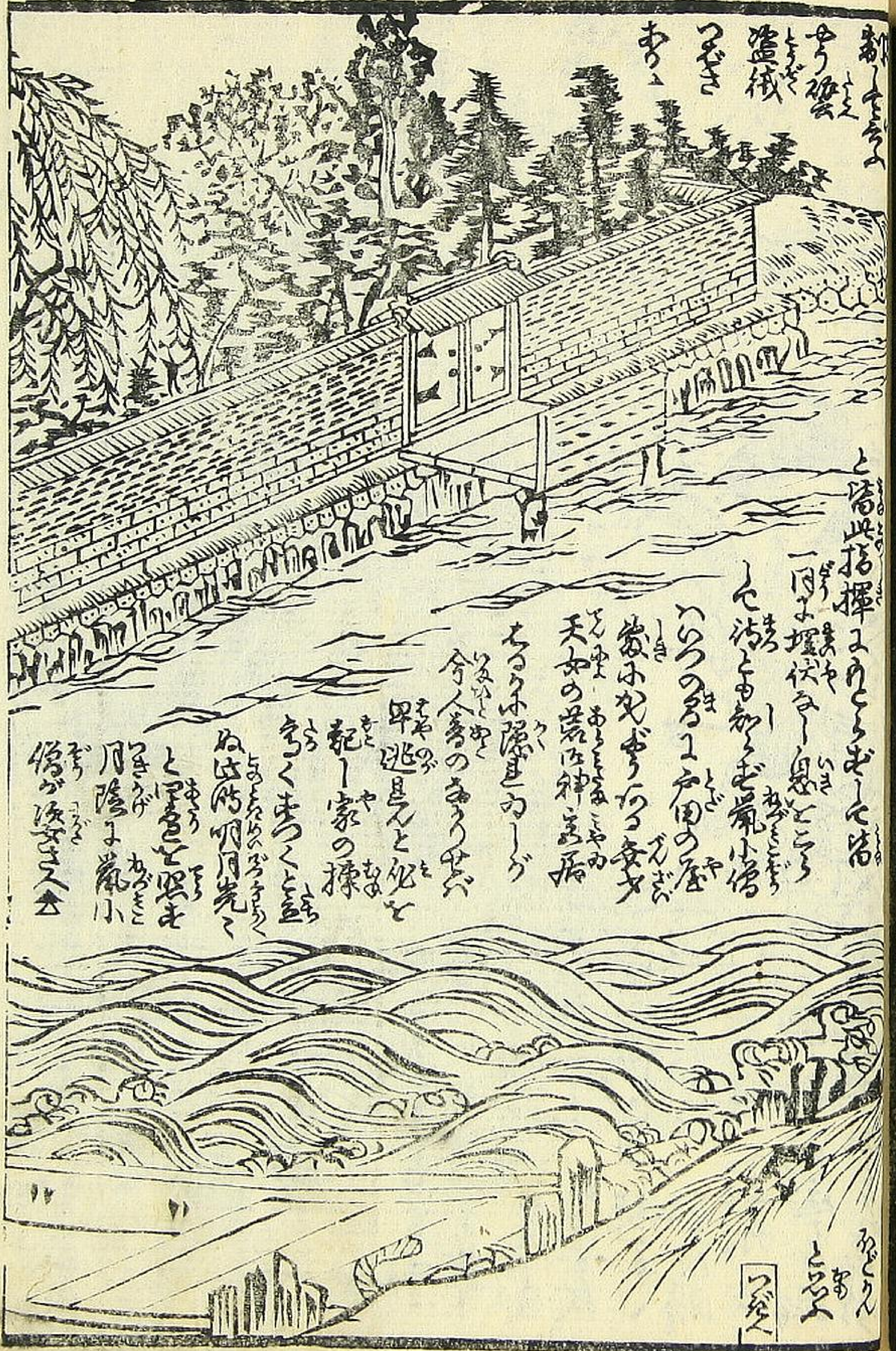
寶入船
人足帳
金銀出入帳
卯

酉

〔つゞき〕ほしむる折(をり)夜更(よふけ)すぎしる頃(ころ)東(ひがし)の方(かた)より
大音(だいおん)に御用(ごよう)なりと呼(よば)はるゆゑ此(この)
殺害(せつがい)の役人(やくにん)数多(あまた)出(いで)来(き)て
侍(さむらい)どもある所(ところ)に詰(つめ)かけ
突然(とつぜん)なりしかば
嵐小僧(あらしこぞう)はものゝ数(かず)とも
せず神変不思議(しんぺんふしぎ)
の早業(はやわざ)にて
其場(そのば)をうまく
逃出(にげいだ)しが跡(あと)
多(おほ)の役人(やくにん)達(たち)も
今しばし追(おは)んと
あわて騒(さわ)ぎ
とある一人(ひとり)の役人(やくにん)
捕手(とりて)のものと

上(うへ)今(いま)の有様(ありさま)ふして
遠(とほ)くへは行(ゆか)じ彼(かれ)をぞ探(さが)しあらん
必(かなら)ず近辺(きんぺん)を逃(のが)すなと申(まう)しければ
ひそめきくと捕方(とりかた)の者(もの)必(かなら)ず奴(やつ)の
逃(にげ)しんと跡(あと)を追(おつ)て行(ゆく)ほかなし

去(さ)る所(ところ)のやうろ
早(はや)くも
捕手(とりて)の
役人(やくにん)
ばらばらと
御用(ごよう)
彼奴(きやつ)まはれ
嫌疑人(けんぎにん)とよぶ
縄(なは)よ縄目(なはめ)に
かけられる
嵐小僧(あらしこぞう)
は
めがけ
打(うつ)

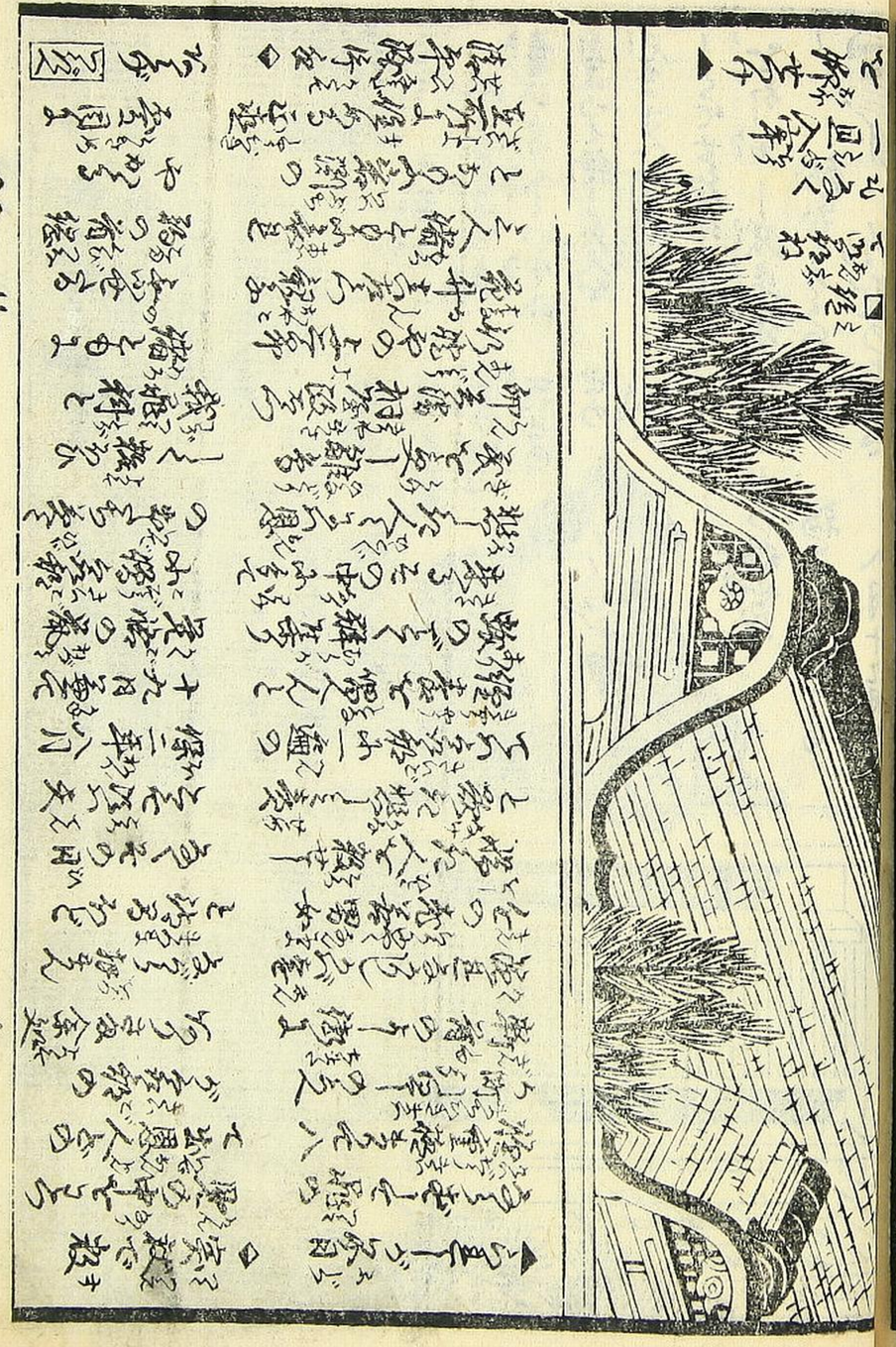


都(と)まゝよ
手(て)う婆(ば)
遣銭(つかひせん)
つゞき
あり

と諸共(もろとも)指揮(しき)にてとりまきしが猶(なほ)
一同(いちどう)に捜索(さうさく)しけれども
して行方(ゆくへ)も知(し)らず嵐小僧(あらしこぞう)
いづくの屋(や)にか戸(と)の屋(や)
家(いへ)に入(い)りける音(おと)も
天女(てんによ)の形(かたち)神変(しんぺん)居(ゐ)
ちるらく隠(かく)れしが
今(いま)人(ひと)寄(よ)るのあらかじめ
早(はや)逃(にげ)しんと処(ところ)を
紀(き)し家(いへ)の様(やう)
うらくまつくと益(ます)
ぬ迄(まで)明月(めいげつ)光(ひかり)て
とほるを照(てら)せ
月陰(つきかげ)に嵐小
僧(こぞう)が後姿(うしろすがた)〔△〕

ねどもん
とお見え

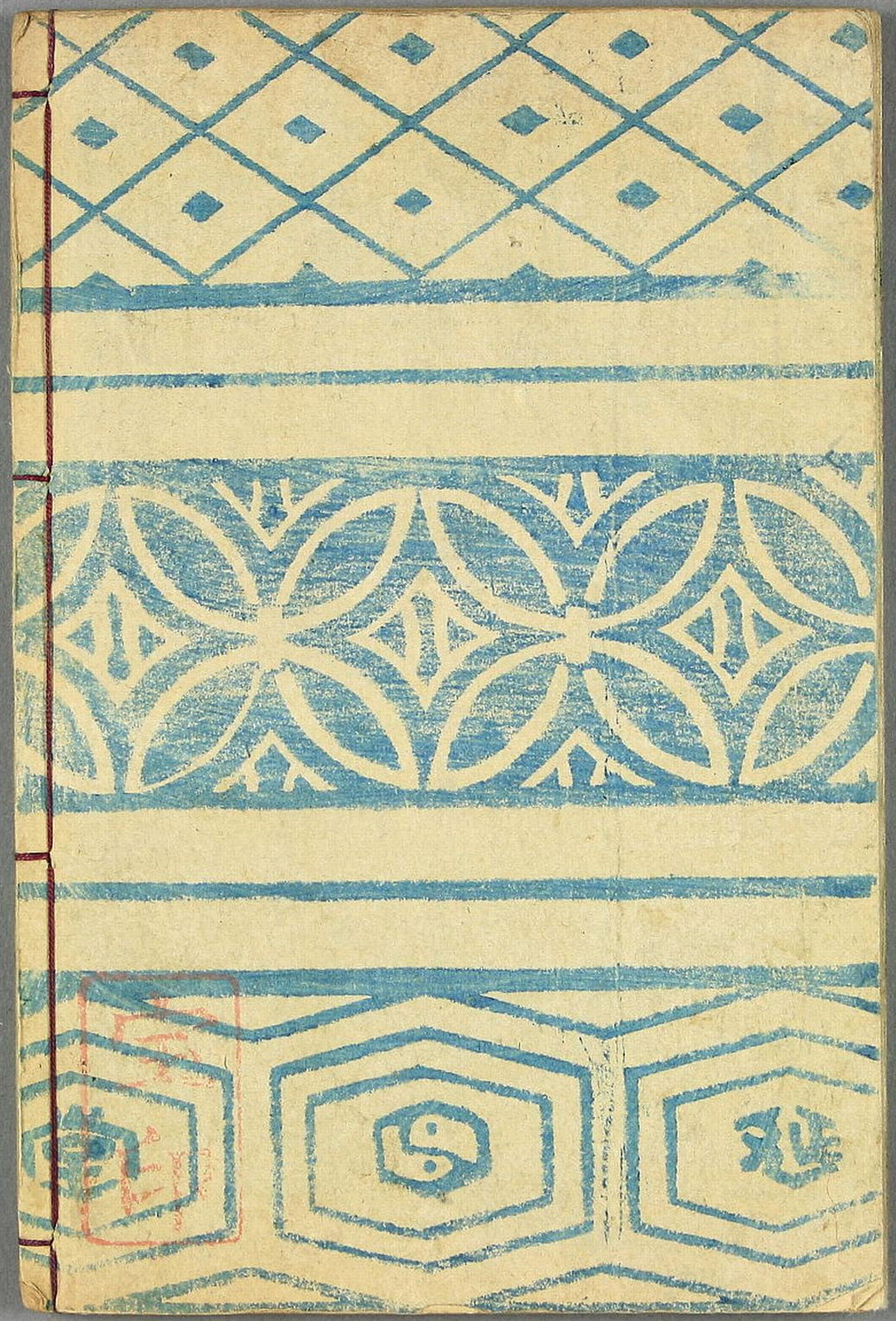
〔つゞく〕



つき
次

つゞき
清
政
明
明

泉竜亭是正作
櫻齋房種畫
[つゞき]
天保二年
次郎大夫墓
八月
御届明治十二年一月曹
本所外手町壱番地
編輯兼人羽田富次郎

小倉山青樹榮 昔日新話 五 泉竜亭是正作 櫻齋房種畫 全
算法教授書 全
鼠袴甲子真聞 三編 泉竜亭是正作 櫻齋房種畫
人民必携交際義務 同
延壽百人一首 全
大日本海陸全圖 銅版 全
白縫物譚 豊國畫 故人種彦稿 種彦作 永板菊壽堂主人 今日こゝ新聞社ゆゑ後編を出板するゆゑ帳ものゝ出版して明治一ヶ年にて拙作ゆゑ一房毒入りぶ出板を看官方陸續ゆゑ求メて仕て帝ゆゑ六十四編出板 板元彩白
東京日本橋通三丁目十三番地
小林延壽堂
地本錦繪問屋 丸屋鉄次郎版元

010190511672